

## 第1章

## 緊急事態発生時の対応

## 第1節 はじめに

緊急事態発生時において、最も大切なことは、まず、自分自身の身の安全を確保することである。周囲の人の救助・安全確保や被害拡大防止のための活動は、自分自身の身の安全を確保し、危険のないことを確認してから行うことになる。自分の身の安全は自分で守ることが被害を最小限にするために重要なことである。

この章では、緊急事態発生時の一般的な対処方法と、第4章以下に述べる各論とは別に、特に重要で、すぐに実行すべきことについてまとめてみた。緊急事態発生時に読むのはもちろん、事前に読んでおいて緊急時には速やかに最善の対応ができるように準備しておいて欲しい。

## 第2節 具体的対応

## 1 安全の基本

安全の基本として普段から下記について注意すること。

- (1) 常に、実験室等の整理・整頓・清掃・清潔に心がける。
- (2) 服装や履物は作業に適したものを着用する。
- (3) 作業に合わせた防護用具（ヘルメット、保護眼鏡、グローブ、マスク等）を使用する。
- (4) 作業に合った安定した姿勢で作業を行う。
- (5) 独断や早合点はケガのもとであることを心得る。
- (6) 長時間同じ姿勢での作業では、静的疲労を解消することも大切である。

## 2 電気事故が起きたら

## 【感電の場合】

- (1) 「非常停止スイッチ」により大元の電源を切る。あるいは実験盤の開閉器（ブレーカー）をオフにする。
- (2) オフにできない場合は救助者が感電しないよう、乾いた棒、布、絶縁ゴム手袋等を用いて要救護者を感電部位から引き離すようにする。
- (3) 心肺停止あるいは呼吸が浅いときは、心臓マッサージ及び人工呼吸をしながら救急車を呼ぶ（心臓マッサージ、人工呼吸については pp.10-11 を確認すること）。
- (4) 保温、安静に努める。

### 3 ガス漏れに気がいたら

- (1) ドアや窓を開放する。
- (2) ガスコックや元バルブを閉じる。
- (3) あわてて、換気扇や電灯のスイッチを入れないこと。(スイッチの火花がガスに着火して、爆発する恐れがあるため。)
- (4) 周囲にガス漏れについて周知、避難を進めるとともに緊急連絡先に報告すること。

### 4 火災が起きたら

#### (1) 発見・通報

火事を出したり見つけたりしたら、とにかく大きな声で周囲の人に知らせ、協力を求め、発信器のボタンを押し非常ベルを作動させること。

#### (2) 初期消火

状況に応じ、消火器もしくは屋内消火栓による初期消火に努める。

#### (3) 避難

初期消火の限界は天井に火がとどくまで。手に負えないと判断したら安全な場所へ避難する。ドアや窓を開けて出る。持ち出し物にこだわらない。エレベーターは使用しない。

### 5 地震が起きたら

- (1) 緊急地震速報や揺れがきたら、先ずテーブルなどの下に身を伏せ安全を確保する。揺れがおさまったら、火の始末等を行う。
- (2) 戸を開けて、出入口を確保する。あわてて外に飛び出さない。
- (3) 火が出たら状況に応じて初期消火に努める。
- (4) 門や塀に近寄らない。室内ではガラスの破片に気を付ける。
- (5) 協力し合って応急救護する。
- (6) ラジオ、テレビ、ネット等による正しい情報により行動する。